

現在の分析

〈知識及び技能〉

- ・昆虫の育ち方に完全変態と不完全変態があることを理解し、それぞれの育つ過程に類似性があることに気がつくことができた。昆虫のからだのつくり、頭、胸、腹についておおむねの児童が理解している。
- ・植物のからだは、どれも葉・茎・根からできていることを理解している。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・身近な生物の成長の過程を調べ、成長のきまりについての考えをもつことができた。
- ・共通点や差異点に着目して観察すること・細部にまで目を向けて観察することが難しい児童がいた。
- ・観察や実験のまとめを自分の言葉でまとめることができない児童が多い。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・身の回りの生物の様子やすみかに興味・関心をもって調べようとする意欲が見られた。また、これまでの経験から、生物に親しみをもったり大切に接したりすることができる。しかし、自然に触れる経験には個人差があり、生物への関心に個人差が見られた。
- ・自分が育てる活動を通して、生物に親しみながら観察をしている姿が見られた。しかし、植物への関心には個人差がある。

重点課題

〈知識及び技能〉

- ・細かい部分までよく観察して記録ができるようにする。
- ・自分が獲得した知識に対して意味づけ、関連付けをして考える力を育てる。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・実験や観察の結果と気付いたこと・わかったことを明確に区別し、自分の言葉で表現する力を育てる。
- ・2つのものを比較しながら調べる活動を重視して、事象の共通点や相違点という視点から問題解決できるようにする。
- ・これまでの生活体験などを根拠として、自分なりに予想(仮説)を立て、見通しをもって観察や実験に臨むことができるようにする。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・一人一人が身近な生物や事象と関わるような環境を整える。
- ・興味・関心をもって追究していけるような教材の提示、導入の工夫をしていく。

授業改善策

〈知識及び技能〉

- ・1, 2年の頃より行っている、自分で育てていくという活動から、実感を伴った理解を大切にしている。
- ・学級全体やグループでの話し合いの後、分かったことについて、自分の言葉でまとめる活動をさせる。
- ・具体物で確認しながら知識の定着を図っていけるよう、教材の研究をする。
- ・2つのものを比較しながら調べるという活動を繰り返し、共通点や相異点についてまとめるようにする。
- ・学年でノート書き方を統一し、日常的に問題⇒予想⇒方法⇒結果⇒考察の順番で進める。
- ・観察カードや記録カードなどを、教室内に掲示し、観察のしかたのよい例を広めていく。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・友達の発表を聞き、自分の考えと比較するという力を養う。
- ・調べていくものに対して、予想を立て、その理由をノートやワークシートにまとめるなどして、観察や実験の見通しをもたせる工夫をする。
- ・観察の際には視点を明確にし、実験を行う際には予備実験を行う等して、結果が明確にわかるようにする。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・一人一人が身近な生物や事象と関わるような環境を整え、自分が育てる・自分が調べる活動を十分に行わせるようにする。
- ・自然事象を身近に感じることができるよう、教室に生物(昆虫・植物)を置いて、いつでも観察できる環境を整える。また児童が興味をもてるような教材の提示や導入の工夫をしていく。